よこはま支部だより

issue 2012.1.1
VOL. 56

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部
THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

CONTENTS

●新年のご挨拶 ○横浜支部長 山成芳直	p1
●夏の納涼会報告 ○厚生委員会	p2
●日帰り研修バス旅行 ～JFE・笠森観音・ホキ～	p3
●美術館建築シリーズ ～建築家 渡辺仁を知る～ ○総務委員会	p4
●近代建築世界一周 No6 ～デンマークの旅～ ○桜本将樹	p6
●民家めぐり#6 ～旧小岩井家住宅～ ○広報委員会	p8
●絵画同好会だより ～H23.11.13 裸婦ﾃﾞｯｻﾝ会～	p9
●ワイン同好会だより ～第 31 回同好会～	p10
●テニス同好会だより	p11
●お知らせ 編集後記	p12

編集 広報委員会
発行 社団法人 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当：大平

231-0011
横浜市中区太田町 2-22 神奈川建設会館 5F
TEL：045-201-1284 FAX：045-201-0784

新年のご挨拶

横浜支部長　山成芳直

新年明けましておめでとうございます。会員、賛助会員、関係諸団体の皆様には常日頃より建築士会の各事業にご理解とご協力を賜りまして心より御礼申し上げます。

昨年は震災含め色々な出来事により皆様の日常生活、業務に影響・変化が発生したことと存じます。良いことは少なく、ご苦労のほうが遥かに多い一年だったのではと拝察する次第です。特に震災関連でご関係者の方が被害にあわれた方には心よりお見舞いを申し上げる次第です。

街づくり、法整備、建築計画・構造・設備、インフラセキュリティなど、建築関連においても様々な問題点が実際の事例として日本全体で直面した一年でありました。

建築士連合会では昨年を『コミュニティ・アーキテクツ元年』と位置づけ年初から活動を展開したわけですが図らずも日本各地でコミュニティの欠如が露呈してしまった一年でもありました。我々、建築士が地域コミュニティ構築の一端を担うことも時代の要請であり、使命となりつつあります。会員の皆様にはそれぞれのお立場で『コミュニティ・アーキテクツ』についてお考えいただき、できることから行動に移していただければ幸いです。また、横浜支部の活動、組織でお役に立てることがございましたらご提言いただきたく存じます。

昭和２０年終戦以来の記憶・記録に残る昨年を受け、本年は“再興“をキーワードにした一年になるのではと感じています。困難な時代ですが我が国民が連綿と築き上げてきたヒューマニズムと逞しさを信じて自分なりに少しずつ

でもできることから微力ながら実行していこうと考えております。
　横浜支部においても３９名まで増えた活動委員の協力をいただきながら会員の皆様、地域の方々のお役に立てる活動を継続してまいりたいと考えております。どうか会員の皆様のご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。
　本年が皆様にとって幸多い一年となりますよう陰ながら祈念しております。

横浜支部長　山成 芳直

夏の納涼会報告

横浜支部厚生委員会

　今年の夏の納涼会は、９月２日マリンタワー１階、ザバンドで行われました。
　和歌山などに甚大な被害を与えた、台風１２号が四国から中国地方をゆっくり北上し、首都圏を直撃するのではないかとの予想でしたが、幸いコースがずれて大荒れの天気ではなく、予定通り開催されました。
しかし、風が強く、当初予定されていた戸外でのバーベキューは中止になり、ちょっと、残念な思いでしたが、ゲストの藤田さん、岡部さんを交え参加３３名でにぎやかに楽しいひとときを過ごすことが出来ました。
　最後に、みんなで、マリンタワーに上り、美しい夜景堪能しました。

横浜支部　◆日帰り研修バス旅行◆

～STEE[sti:l]鋼＋日本唯一の四方懸造＋旧スイス大使館での昼食～

平成 23 年 11 月 10 日

JFE スチール株式会社パンフレットより

8 時 50 分に横浜の天理ビル前に集合し、バスを借り切っての旅です。

最初の見学地である「JFE 株式会社東日本製鉄所京浜地区（旧日本鋼管）」の工場に向けていざ！

途中、関係者以外通行禁止である「JFE 地下トンネル」をくぐり 10 時少し前に扇島入口に到着。バスを乗り換え、まずは会議室にて技術や営業担当の方、DVD による鉄の作り方についてのレクチャーを受け、作業着、ヘルメット等を借りて工場へ出発。広大な敷地ゆえバスにて移動。途中壮大なるパイプラインをすり抜け、鉄鋼石の山を眺めながら、「転炉」のコントロール室へ。炎を巻き上げる製鋼の様子を見学。いくつかの施設を見て廻ったが、圧巻だったのが、「厚板」の製造工程。内部は写真禁止だったので、パンフレットの写真をのせてみたが、1Km はあろうかという工場内のなかを真っ赤な鉄（スラブ）が流れて来ては幾度なく延ばされて厚板が造られていく。熱さと水蒸気のすさまじい音と迫力。最大幅 5300 ㎜の鋼材を製造できるのは国内でここだけだそう。国力の素晴らしさを感じた瞬間である。

再びバスに乗り込み、千葉へ。国の登録文化財にも指定されている「旧スイス大使館（移築）現在、和食処翠州亭」にてお昼ご飯。時間を押していて少しあわただし食事ではあったが、お庭、建物もしっかり見学し、集合写真。

ちょっと駆け足で、鎌倉時代に建立された「笠森観音」へ。61 本の支柱、床の高さは 16m もあるそうだ。門に飾られた彫刻もとても美しい。階段を上り、観音様を拝み、景色を堪能し、次は総計 500m の長い回廊型の「ホキ美術館」。自然光をしっかり取り込み、8700 個の LED ライトが天の川の如く天井に配置されて美しい建物である。30 分の急ぎ足での見学が終わると外は夜の帳が下りるころ…　アクアラインからの夜景がおまけについてきて、8 時前に横浜に到着。

長い１日でしたが日本の長い歴史や技術、文化を一気に眺められた旅でもありました。車中では飲み物、お菓子（おつまみ）も用意していただき、和気あいあいの充実した楽しい時を過ごしました。次はどんな旅になるのか楽しみにしております。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました！　　（吉原直美記）

『　美術館建築シリーズ　～　建築家　渡辺　仁を知る　～　』

横浜支部総務委員会

横浜支部では、恒例になりました「美術館建築シリーズ」として、平成２３年１０月２９日（土）に品川の御殿山にある「原美術館」の見学会を開催しました。

すばらしい青空の下、会員２０名が御殿山の丘の上、閑静な住宅街にある「原美術館」の前庭に集合しました。

「原美術館」の建物は、上野の東京国立博物館本館や銀座の和光本館（旧服部時計店）の設計で知られる渡辺仁氏が設計し、東京ガス会長、日本航空会長、帝都高速度交通営団総裁などを歴任した実業家原郁造氏の邸宅として建てられた建物で、戦後しばらくは進駐軍（ＧＨＱ）に接収され、政府の外務省公邸としても使用されていたそうです。その後、取り壊しも計画されたそうですが、重機で壊そうとしても頑丈すぎて（！）壊せなかったというエピソードもあるとのこと。１９７９年に生まれ変わってオープンした元住宅を改造した美術館です。

暖かい陽気の中、静かな住宅街の「車寄せ」であった深い緑の中にある前庭の「静かに時間が流れるようなほっとする空間」で、開館を数分待ってから、「元住宅の玄関」という美術館らしからぬエントランスから白色系のモザイクタイル貼り外壁の建物に入りました。

磯崎新アトリエ設計の付属レストラン奥の多目的ホールで、なかなかお話を伺う機会などない美術館の学芸員の安田篤生様から建物の歴史や展示スペースの構成、展示内容について、２００７年に全館改装の設計を担当された鹿島建設の野島秀仁様からは建物の建築的な面から、それぞれ貴重なお話をお聞きし、その後、お二人と一緒に館内を見学しました。

元々住宅であったため、居室や居間を「企画展スペース」に、トイレや浴室の狭い部屋を「常設展示スペース」に使用するなど、

美術館として建てられた建物とは違う、ヒューマンスケールの展示空間となっていました。

この美術館は「現代アート」を展示していますが、作品は展示される空間スペースにあわせて製作されていたり、また逆に空間も展示される作品にあわせて壁の色を塗り替える、窓をボードでつぶすなど、様々な改造をして作品を生かす工夫をし、作品と展示空間を一体化して展示するのが特徴だとのこと。

階段下の「トイレをモチーフにした作品」、「壁にコイン投入口だけが空いている作品」、「繰り返し映像を流している作品」など「これもアートなの（！）」といった様々な個性的な作品が展示されていました。

元々住宅だったため、美術館としては非常に天井が低いのも特徴です。とは言え、今の住宅と比べれば十分に高い天井なのですが・・・。廊下には光ファイバーを使った照明器具も配置されていました。

現代アート・・・、私には理解がしにくい苦手な分野の芸術作品ですが、美術館の企画・運営者である学芸員と改装を担当された設計者が一緒に館内を回ってくださり、それぞれのご専門から住宅を改造した美術館ならではの特徴・工夫などを細かく説明していただき、既存建物の再利用、バリューアップ事例としても興味深く、新しい発見や驚きも多くあり、非常に楽しい、また貴重な時間を過ごすことができました。

館内見学の後で、「予約しないと入れない」という評判の館内のレストランで、おしゃれでおいしい食事をとりながら余韻に浸り、あっという間に解散の時間となりました。

近代建築世界一周（Ｎｏ．６）　―デンマークの旅―

【はじめに】

デンマークではピクトサインから駅舎、自転車、照明、家具、建築にいたるまで人に優しくセンスのいいデザインを見ることができます。建築物としてはアルネ・ヤコブセンの作品をはじめ多くのすばらしい建築に出会うことができました。

①SAS ロイヤルホテル（コペンハーゲン）

【旅の行程】

短い北欧の夏を考慮して、６月初旬から２週間をかけて、コペンハーゲンのあるシェラン島からフュン島、ユトランド半島を廻りました。コペンハーゲンの運河のある町並みも美しいのですが、郊外の草原の広がる美しい景色が格別にすばらしいものでした。

②オーフス市庁舎（オーフス）

【交通・安全】

デンマーク本土のみであれば、日本の国土の 10 分の１程度しかない小さな国ですので、移動手段は鉄道とバスで十分です。観光案内所は充実しており、治安もよく心地よく観光できる国であると言えます。

③ミュンケゴー小学校（シュボー）

【アルネ・ヤコブセンの建築について】

デンマーク近代建築を代表する建築家は、アルネ・ヤコブセンですが、その作品は庁舎、学校、集合住宅からホテルまで多岐にわたります。そのうち、今回の旅では 16 作品を訪れました。ヤコブセン代表作と言えば SAS ロイヤルホテル（1961）**（写真①）**です。アメリカの高層モダニズム建築のプロトタイプでもあるレヴァーハウス（1952）と同じ低層と高層の組み合わせのプロポーションが美しい建築です。また、市庁舎ではオーフス市庁舎（1942）**（写真②）**が面白く、外観の塔デザインもさることながら、内部の吹き抜けホールや、中央のトップライトから入る事務所部分の吹き抜けが圧巻で詳細を含めて見所が満載です。学校ではミュンケゴー小学校（1956）**（写真③）**がお勧めです。数種類のヤコブセンチェアが並べられ、円形のシーリングライト、透明なスピーカーなどヤコブセンのデザインに囲まれており、ハイサイドライトからの光で教室は明るく、各クラスルームには中庭があるというなんとも贅沢な学校です。外構におけるキャノピーの洗練されたデザインも見逃せません。ノヴォ製薬研究所（1936）**（写真④）**は初期モダンデザインの美しい外観は見事ですが、さりげなく添えられた屋外スチール階段は透明のシリンダーに覆われており、まるで芸術作品のように輝いています。コペンハーゲン中央駅から列車で 15 分にあるベルヴュー・ビーチは若干 29 歳のヤコブセンがコンペで獲得したリゾート開発計画地で、ベラヴィスタ集合住宅（1934）**（写真⑤）**をはじめ、劇場、カフェ、ガソリンスタンドなどの白い初期モダンデザインの作品に出会える、ヤコブセン・フリークにはたまらない地域となっています。

④ノヴォ製薬研究所（フレデリックスボー）

⑤ベラヴェスタ（ベルヴュービーチ）

【デンマーク建築のベスト５】

ヤコブセンの建築について紹介しましたが、実はデンマークにおいてはこうしたヤコブセンの建築以上に優れた作品が多く、特に光の取扱いは格別のものでした。

１．ルイジアナ美術館 1958 年（ヨーン・ボウ＆W・ヴォラート）（写真⑥）

建物は風景を遮らないように一部地下に埋め込まれた回遊式に配置され、館内では緑の中を通過したり、深い緑の池に出たり、海を見渡せたりとそのシークエンスを満喫できます。自然の風景の美しさを重視し、巧みな建物配置によって得られる心地よさは、世界中でもこの美術館を越えるものはありません。

⑥ルイジアナ美術館（ホムルベク）

２．エングホイ教会 1994 年（ヘニング・ラーセン）（写真⑦）

あたりは一面のどかな草原の広がる丘陵地で、風になびく草花の上に雲の影が流れていく光景は風と光を視覚化している印象派の絵画をみているようです。そんな中、丘の上に佇む教会は清楚で美しく、チャペル内部でも神秘的な光があふれており、北欧の短い夏の貴重な太陽の光を絶妙に取り入れていました。

⑦エングホイ教会（ランダース）

３．ベアスヴェド教会 1976 年（ヨーン・ウッツォン）（写真⑧）

外観からは想像もつかない大波のようにうねるチャペルの天井からは、拡散された柔らかな光が回り込み、神々しい光が降り注いでいます。さらに興味深いのは建物内部で最も強い直射日光を受けるのが、高いトップライトから降り注ぐ光で満たされた通路部分で、北欧における光の扱い方のうまさを実感できます。

⑧ベアスヴェド教会（ベアスヴェド）

４．北ユトランド美術館 1972 年（アルヴァ・アアルト）（写真⑨）

天井は円弧状に曲げられた吊り天井をはじめ、まるで採光方法の実験のごとき様々な形態を見せています。アアルト晩期作品で、円形や矩形のトップライト、ハイサイドライト、屋外劇場、照明や家具、手すりなどの詳細、アアルトの建築要素（言語）を十分に満喫できる秀作です。

⑨北ユトランド美術館（オールボー）

５．新カールスバーグ彫刻美術館 1996 年（ヘニング・ラーセン）（写真⑩）

エントランスから続く既存部分のパティオには、多くの植栽と柔らかな自然光にあふれる心地いい空間となっていますが、さらにラーセンによる増築部分では、緩やかな回廊部分にはるか上部のトップライトからの自然光が、神秘的な光となり降り注いでおり、ここでもまた、北欧の光の美しさを実感することができます。

⑩新カールスバーグ美術館（コペンハーゲン）

世界最高峰のデンマークのデザインは、現代建築にも引き継がれ、見るべき建築作品は増加しつつあります。奇をてらう多彩な昨今の建築の傾向に対して、デンマークはますます堅実で魅力的な建築文化を持つ国となっていくという印象を受けました。

参考文献『近代建築世界一周』ADP 出版 桜本将樹

建築士会会員　桜本将樹

11 月 12 日（土）、ポカポカ陽気な午後の出来事

～栄区・本郷ふじやま公園、旧小岩井家住宅～

　実はときどき、広報委員会では、内輪で遊びに出かけます。　海の公園の花火大会観賞は、年中行事としてすっかり定着し、ハイキングから格上がった登山とか、古民家の見学といったあたりが、最近の裏動向（同好？）でしょうか。今回は、旧小岩井邸に出かけてきました。　本郷台駅から歩いて１５分、ふじやま公園の中にある、昔の名主さんの住宅です。（右、観光モード写真）

　遊びで行ったのですから、サラっと内部を見て、縁側で記念写真をとり、さて帰りましょう！といったところで、管理係からインネンが。「おたくさん達、何者？」

　床の間をさすったり、石臼をたたいたり、いつもの悪い癖が遠くからしっかり監視されていたかと、一瞬ギクっとし、「いやー、実は‥」と正体（？）を明かしたところ、「どうりで。何か目つきが違うなー」というご返事。

　「目つき？　俺？　まさかー。　全員？　そんなー」。　それからは、親切なおじさんの「通常はお見せしない部分」の披露が始まり、御一行様は再び建物内へ。　杯の形をしたダボ穴や跳ね上がる間仕切り壁に、　一同思わず「オー！」。逆に、建物の正体（？）を明かされた、濃厚な見学会になってしまいました。（左、建築モード写真）

余談ですが、今回の本当のメインディッシュは、モンテカティーニというイタリアン。　庭園やテラスを備えた、とてもリーズナブルなお店。編集の英気を養って（？）きました。と言っておくのが、一番聞こえが良さそうです。
（右、委員会モード写真）

広報委員　田川尚吾

「絵画同好会」だより

～2011 年 11 月 13 日（日）かながわ労働プラザにて、裸婦デッサン会を開催～

休憩をはさんで約３時間のデッサン、一番長いポーズでも２０分、５分や１０分のポーズもあります。描き始めると以外と短く、あっという間に過ぎてしまいます。

モデルを観ながら、先ず自分の描く位置取りから始め、全体の構成、あとは時間との戦いです。短い時間の中で仕上げるのはかなり集中力が必要で、描き終えたときは疲れがどっと出てきます。普段こんなに集中力を使ってないからだと思います。

楽しさと快い疲れのあとは、少し早目の忘年会での ビールがより美味しく感じました。

鈴木洋子会員の作品

鈴木洋子会員の作品

菊地紀代子会員の作品

藤井利時会員の作品

高橋伸廣会員の作品

「ワイン同好会」だより

～第31回ワイン同好会に参加して～　　横浜支部　下村ちはる

第31回ワイン同好会は、11月2日(水)に横浜駅東口のヨコハマポートサイド地区にあるkishidaにて22名の参加者のもとに開催されました。

まず頂いたのが、ドン・クリストバル・1492・シャルドネ’10、こちらは「熟したメロンを思わせる果実味」ということでアルゼンチン産のシャルドネ種、少し大人フルーティな味わいの白。次に頂いたのがブルゴーニュ・ブラン’09、同じシャルドネで、こちらはフェヴレイ、同じ白ですが、私としてはフェヴレイのほうが飲みやすく感じました。飲み比べをすることが出来るのがワイン会の毎回の楽しみです。それから同じフェヴレイのブルゴーニュ・ルージュ’09を頂きました。これはピノ・ノワール種の赤、こちらはまだ若く、もう少し熟成してから飲みたいなと感じました。

そしていよいよ本日お目当ての赤ワインが続きます。まずはシャトー・シャス・スプーリン’07、これはカベルネ・ソーヴィニヨン65%、メルロ30%、プティヴェルド5%とタンニン豊富で力強く、甘みを感じさせる一本ということでしたが、確かに格付級に負けない味わいに、不思議に気持ちが浮き浮きするワインでした。最後に頂いたのがシャトー・ローザン・ガシー’06、格付第2級で以前は評判があまり良くなかったみたいですが、最近は質を高めて深みが増し、繊細でエレガントな風味に落ち着いてきたとのこと、どこかしら気品漂うこのワインはこの夜一番のものに感じました。

今回も素敵な空間で美味しい食事とワインを堪能させていただきました。まだまだ初心者ですが、これからも美味しいワインをいろいろ頂きながら、味覚に磨きをかけたいと思いました。休憩をはさんで、約３時間のデッサン、一番長いポーズでも２０分、５分や１０分のポーズもあります。描き始めると以外と短く、あっという間に過ぎてしまいます。モデルを観ながら、先ず自分の描く位置取りから始め、全体の構成、あとは時間との戦いです。短い時間の中で、仕上げるのは、かなり集中力が必要で、描き終えたときは、疲れがどっと出てきます。普段こんなに集中力を使ってないからだと思います。

楽しさと快い疲れのあとは、少し早目の忘年会での ビールがより美味しく感じました。

テニス同好会だより

定例会報告

・平成２３年９月１０日(土)
　練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡコート　　参加７名
９月なのにまだ暑さが続いていました。
１面なので、ちょっと物足りなかったような・・・

・平成２３年１０月８日(土)
　練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート　　参加８名
本当に１０月？と思わせるような暑さ、この半袖が証拠！
久しぶりの２面でしたが、定員ぎりぎりで試合は休む間もなく・・・

・平成２３年１１月１２日(土)
　練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡコート参加４名
少ない参加者でしたので、休むことなく１面フル活用出来ました。

・平成２３年１２月１０日(土)
　練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート参加９名

忘年会は来週に持ち越し！久しぶりの仲間の参加で、楽しい定例会となりました。
有志で反省会を開催し、夜遅くまで懇親を深めたようです。

我が同好会はテニスを通じて仲間同士の交流を大切にしています！

同好会会員募集中！

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎！お気軽に連絡下さい。
ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入お願いします。

連絡先：玉野　045-894-8452　FAX893-6614

平成２３年を振り返り

平成２３年１２月１８日（土）関内中華店にて　参加１０名

今年の反省、最近の参加者減少傾向をどのように解決したら良いか？同好会の在り方についても真剣な議論がなされました。やはり継続することに意義があるので、各自参加を呼びかけるようにしようという事になりました。

真剣に議論している様子

新年初練習＆新年会

平成２４年１月１４日（土）
定例会：PM　5:00～7:00　金沢産業振興センターＡ・Ｂコート
新年会：PM　7:30～　　新杉田駅周辺（年頭の目標、皆勤者の表彰）

● 横浜支部よりお知らせ

平成 24 年度の横浜支部総会は、5/19（土）に決定となりました。万時お繰り合わせの上、ご出席の程、よろしくお願い致します。詳細は追って告知致します。

● 編集後記

謹賀新年、本年もどうぞ宜しくお願い致します。昨年は未曾有の災害に見舞われ、現代社会の抱える脆さが露呈してしまいました。今後の復興は、既成の枠に囚われずに英知を以て進められることを期待しています。

広報委員会の委員長、副委員長（大貫と大西）の両名は今期を限りとし、次号から新しい体制に移行したいと考えております。これまで多くの方々に投稿頂きありがとうございました。

編集　広報委員会
編集スタッフ（あいうえお順）
雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫　浩・桶師徳行・田川尚吾・玉野直美・丸山幸一